

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 聖徳園	代表者	三上 了道	法人・ 事業所 の特徴	敷地内には同法人が運営するグループホーム、こども園、母子生活支援施設、児童家庭支援センターがある。それぞれの事業所を利用している子どもや保護者と日常的に交流を行っており、利用者の楽しみや生きがいとなっている。施設には2匹の猫を飼っており、利用者の癒しになっている。
事業所名	あわら聖徳園	管理者	中島 幸恵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	4人	0人	0人	1人	0人	4人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	引き続きPDCAのサイクルに添って職員全員で取り組めるよう努力していく。その為には月一回の職員会議で全員が意見を出し合い、正職員や非常勤の職員も同じ目標に向かって支援できるようにする。 内部研修だけでなく、外部の研修にも積極的に参加していく。	PDCAサイクルに添っての支援は努力しているが、まだまだ満足できるものではない。職員会議では正職員、パート職員関係なく活発な意見がでており成果に繋がっている。 研修に関してはほぼ計画通りに実施できており、外部研修にも積極的に参加することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の目標を一覧表にし、いつでも確認ができるようにすることは良いと思う。</li> <li>・アクションを起こす時はスタッフみんなの同意を得ることが大事。みんなが納得できる支援をしていかなければならない。</li> <li>・馴染みの生活から切り離さない支援をしていくことが大事。</li> <li>・地域資源でできないことを事業所がしていくことは良いことだが、市や町に地域資源がないということを提案していくことも必要だと思う。</li> </ul>	<p>今年度は特に利用者の残存能力に着目して自立に向けた支援計画書を作成する。支援計画書はPDCAのサイクルで定期的にチェックしながら全員で意見を出し合い取り組む。</p> <p>訪問の充実を図る。ただ安否確認やバイタル測定をするだけの訪問内容ではなく、その人が自宅でのどのような生活をしているのかを客観的に観察し、把握、分析を行い、ひとり一人の能力に合わせた支援を行っていく。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	季節を感じられるような展示をする。 いつも季節の花を飾ってある環境をつくり四季を感じてもらう。 子ども達と行事を一緒に行うだけでなく、日々の中で何気ない時間を一緒に過ごせるような時間をつくる。	毎月フロアの壁面に季節にあった作品展示をすることで、季節感を感じてもらうことができた。 作品作りは職員だけでなく、利用者と一緒に作ることを心がけた。 こども園やファミリーの施設の子ども達との交流する機会も多く持つことができ楽しんでもらった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にご意見はなかった。</li> </ul>	<p>園児や小学生と定期的に触れあえる機会を作り、生活に楽しみを持ってもらう。</p> <p>感染症予防を更に強化するために事業所内の室温や湿度を適正に管理する。</p>

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>施設としての居場所は敷居が高いと思うので、お寺を利用したり、新たなものを作り地域の方に利用してもらうなど検討していきたい。 事業所の行事などに地域の人が参加してもらえるような企画を立てる。</p>	<p>昨年は初めて地域の夏祭りに出店を出させもらい、地域の方と交流することができた。 事業所の行事では地域の人に参加してもらうこともできている。 ふれあいフェスタでは、いきいきサロンに参加している人が餅つきのお手伝いとして参加してくれた。 昨年の大雪の時は地域の青年団の方が事業所前の道路を雪かきしてくれるなど協力が得られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事にいきいきサロンの参加者がお手伝いをするのは、いきいきサロンに来ている人にとっても良いことだと思う。</li> <li>・手伝ってくれるのが当たり前になるのは危険。持続する方向性を考えていった方が良い。</li> <li>・お寺のカフェは良いアイデアだと思う。ぜひ実現してほしい。</li> <li>・いきいきサロンに来ているような70歳代の人に向けて地域の力が大切だと言うことを発信していかなければならない。</li> </ul>	<p>いきいきサロンなど事業所として貢献できることは今後も継続して行く。</p> <p>地域の人と事業所がお互いに協力し合えるような関係性を目指していく。そのためには日頃から積極的に地域に出向き地域の人達と交流する機会を持つ。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>今後も引き続き民生委員の方や行政の方と協力し、一人暮らしや地域との関わりの少ない方の自宅を一緒に訪問しいざと言う時に早急に支援できるような関係性を築いていく。</p>	<p>月一回、地域の一人暮らしの人や地域との関わりが少ない人の自宅訪問は継続することができた。 民生委員の方や地域の方と情報も共有できている。 その取り組みから昨年の台風時には地域の認知症の母親と娘さんが避難し対応することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員に入院や入所の情報が入ってこない。個人情報の壁があることで対応が遅くなってしまうことがある。</li> <li>・民生委員のポジションの位置づけを高くすることが必要。守秘義務が伴えば民生委員の方にもケース会議等にも参加してもらえらると思う。</li> </ul>	<p>今後もいきいきサロンを中心に地域の一人暮らしの方や高齢者世帯の方の自宅訪問を継続していく。</p> <p>収集した情報は民生委員や区長さん、包括、社協などと情報を共有し、それぞれ役割を分担しながら地域の人を支えていけるよう努める。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>会議や行事など家族に参加してもらえるよう家族が集まる場面や内容を工夫する。</p>	<p>家族に運営推進会議に参加してもらう機会はほとんどなかったが、毎回、行政職員や民生委員、区長さんなど参加者から事業所の課題に対して活発な意見をいただいている。 困難事例に対しても他機関から協力も得られ改善できた事例もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族は家族同士での話し合いをした方が良い。</li> <li>・行事に参加してもらい、行事の前に話し合いの場を設けてはどうか。その場合は家族の送迎も必要。</li> </ul>	<p>運営推進会議で困難事例などを報告し、色んな立場からの意見をいただきながら対応策を検討していく。結果もその都度報告していく。</p> <p>事業所のことだけでなく地域の課題なども話し合い、少しでも地域に貢献できるように努める。</p>

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>災害が起きた場合、市・社協・区長と連携していく上で、誰が指示を出し、どう動くのかをもう少し具体的なものにする。備蓄リストも要求があれば出していく。</p>	<p>具体的な対策は検討できなかった。しかし昨年の台風の際は地域の人やひとり暮らしの利用者、その家族など事業所に避難してきたこともあり、避難場所としての役割を果たすことはできた。その経験から多くの課題も見つかり今後に向けての対策も考えていかなければならないと感じた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机上では出来ているが、実際に機能しておらず、災害が起きてから考える傾向がある。それでも計画はしっかり立てておくべき。</li> <li>・BCPでいくらものを揃えていても実際に使えないと意味がない。</li> <li>・福祉避難所に行った方が良い人が避難してきた場合は、市と協力していかなければならない。</li> </ul>	<p>ライフラインや備蓄、防寒など備えはしているが十分ではない部分もあるので不足部分を備えていく。</p> <p>避難訓練の内容を充実させていく（訓練のための訓練ではなく、実際の災害を予想した訓練を実施する）</p>
----------------------------	--	---	---	--